発行日　2013 年 9 月　No.44

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い（ピリピ 1:27）

JEAニュース

ハイライト：
- 第 28 回 JEA 総会報告
- 原発と私たちの責任
- ﾛｰｻﾞﾝﾇ国際ﾘｰﾀﾞｰ会議

福音理解の再確認

クリスチャン新聞で「教会の閉塞感」ということが報道・検証されてから随分時間が経ちました。教会は教会成長を願い、様々なプログラムを行ってきました。昔よりも色々な伝道をして来ましたが、救われる者が少ないし、献身者も増えず、牧師不足に悩まされています。教会の兼牧、合併、閉鎖が検討され、神学校も危機的状況になっているようです。

JEA 理事（神学委員会）
内藤達朗
日本ホーリネス教団
狭山シャローム教会牧師

これらの原因を伝道の情熱の低下と理解したり、また他方、聖霊への過度の期待をする、などしてきたようです。果たして主のみ心はどこにあるのでしょうか。これまで祈り考えてきて、気づかされたことがあります。

神のみ思いと期待

創世記1章26節によると神さまは神さまのかたちに人間を造られました。神さまは神さまのかたちに人間を造るほどに、人間の私たちを信頼し、期待して造られ、そして、この世界を治めてほしいと願いました。海の魚、空の鳥、家畜、地のすべての獣、地のすべての這うものとを治めて欲しいと願いました。つまり、この世界のすべて、神さまが創造された天と地とを治めるようにとの使命が与えられたのです。これは人間に与えられたのみか、夫婦に（27節）、そして、教会に与えられた使命です。

この世界を治めるということは、神さまが第1日から第6日までの間に創造された思いと意図を理解して、神さまの願っているように治めるということです。

しかし、この世界は神さまが願っているようには治められていません。人間が自分の考えと欲に従って治めたため、猿や猪が人間の世界に入ってきたり、森の中でその価値を果たしていた細菌が人間の侵入で人間を襲ったり、今までなかった病気が起こり、この世界の循環とバランスが失われています。ミミズのいない畑、カエルのいない田んぼと自然が破壊されています。これはこの世界を治める使命を与えられた人間、私たちの責任ではないでしょうか。

この使命を果たすはずの人間アダムとエバが神に従わず、自分の考えを優先して、自らの命のみか、この世界の命を損ない始めました。そこで、神さまはこの人間の罪を赦し、この使命を果たす者に回復するために救い主を遣わすことを預言し、そして実現されました。救いは人間の個人的な救いと幸せのためだけではなく、この世界を治める者へと回復するためではないでしょうか。人はイエス・キリストを主とし

（P.8 に続く）

目 次

《巻頭言》 1
JEA 活動報告 2
流れのほとりで 3-4
原発と私たちの責任 5
ﾛｰｻﾞﾝﾇ国際ﾘｰﾀﾞｰ会議 6
青年宣教セミナー 7
災害対応支援プロジェクト 8

JEA 活動報告　（AEA, WEA 関連含む。災害対応関係は P.8 参照。）

■第 28 回日本福音同盟 (JEA) 総会報告

2013 年 6 月 3 日 (月) ～ 5 日 (水)、兵庫県神戸市のポートピアホテルで、第 28 回 JEA 総会が開催された。JEA 加盟の 54 会員 (教団・教会) と 43 協力会員 (宣教団体) から約 130 名 (代議員・オブザーバー) が出席し、2013 年度 JEA 事業計画として、①東日本大震災からの復興支援と次の大災害に備える取り組み、②第六回日本伝道会議 (JCE6 2016 年・神戸) に向けた取り組み、③アジアおよび世界の教会との連帯と具体的な協力の業、④各専門委員会による活動計画、について協議・決定した。（詳細は JEA ウェブサイト http://jeanet.org/ の「第 28 回 JEA 総会報告」の「2013 年度 JEA 事業計画」を参照。）

1. 東日本大震災で問われたもの

一日目の夜は「東日本大震災で問われたもの」と題して、住吉英治師 (福島県キリスト教連絡会) から福島第一原発周辺のビデオ映像を交えた臨場感あふれる現状報告、森恵一師 (保守バプテスト同盟) から震災時の教団責任者として経験した事柄と今後に向けた提言、中澤竜生師 (南三陸町を支援するキリスト者ネットワーク) から被災地域の人々との関わりでクリスチャンとして問われている具体的な事例報告、鈴木真師 (イザヤ 58 ネット) から被災地での支援活動で問われたことに自らの足下の福音宣教・教会形成の現場でどう取り組んでいるのかについての発題、を聴いた。

特に中澤師、鈴木師による「宣教」から「宣証」へという提言は、昨年秋の宣教フォーラム・仙台でテーマとなった「まるごとの福音」(Holistic Gospel) の問題意識をさらに一歩進めるもので、被災地だけでなく日本の福音的諸教会全体に問いかけられている課題であるとの認識を深めた。

2. 神戸から学び JCE6 に向けて協力する

二日目の昼食は第六回日本伝道会議 (JCE6) に向けた懇親会で、神戸開催地委員会 (大嶋博道委員長) の先生方が紹介され、前回開催地の北海道開催地委員会からバトンタッチのセレモニーが行われた。また総会期間中に JCE6 予定会場の見学ツアーも行われた。二日目夕方の『JCE6 テーマ・フォーラム』では、①次世代を育てる、②働き人を育成する、③地域で宣教のために協力する、④この国で主に仕える、⑤世界宣教に貢献する、⑥教会・教団が互いに仕え合う、の 6 テーマ分野に分かれての活発なグループ討議が行われ、JCE6 に向けての課題とビジョンを共有した。

二日目午後の特別講演会「痛みのシェアー～賀川豊彦たちが遺したもの」では、豊彦の孫にあたる賀川督明氏 (賀川記念館館長) が、賀川豊彦たちが自らを救霊団、イエス団と呼び、牧会集団と自認して活動していたことなどを紹介し、貧困救済や共同組合運動などの社会的実践の根底には、イエス・キリストに倣う「痛みにシェアー」があったこと、福音を目に見える形で実践することの重要性と課題などについて語った。神戸の地で、また関東大震災後の首都圏で実践された包括的な福音宣教の取り組みを学ぶことは、東日本大震災で問われた福音宣教の課題を JCE6 につなげていく上でも意味深いものだった。

3. フクシマの声を聴く / 原発ブックレット発行

2013 年度の宣教フォーラムは「宣教フォーラム・福島～フクシマと生きる宣教～」と題して 2013 年 11 月 18 日～ 19 日福島県郡山市のビッグパレットふくしまで開催される。原発事故による放射能被害で苦しむ福島県の諸教会の声を聴き、共に主を見上げる機会となるよう願っている（P.6 参照）。

今回の総会に合わせて、JEA 神学委員会によるブックレット「原発と私たちの責任 福音主義の立場から」(いのちのことば社21世紀ブックレット 49) が発行された（P.5 参照）。また JEA 社会委員会も「第 23・24 回合併号 JEA 信教の自由セミナー報告書」の中で、原発問題の社会的側面についてふれている。昨年の総会で発表された「東日本大震災から一年を経ての理事長所感」を受け、原発問題に対する聖書信仰に立つ福音派としての取り組みがまとめられたことに感謝したい。

■この国のための緊急祈祷会開催

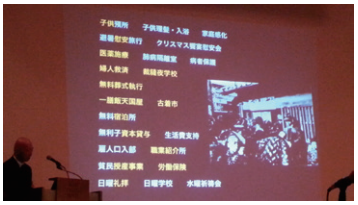
2013 年 7 月 12 日夜、お茶の水クリスチャンセンターにて、第 23 回参議院選挙を前に、JEA 社会委員会主催の「この国のための緊急祈祷会～憲法改正の危機に際して」が開催され、47 人が集まって共に祈った。また渡部敬直社会委員長名でアジア福音同盟 (AEA)、世界福音同盟 (WEA) に祈祷要請を送った。

■アジア教会会議に出席

2013 年 8 月 19 日～ 22 日、タイ国バンコク市で「三位一体の神：創造、教会、終末」のテーマのもとアジア福音同盟 (AEA) 主催のアジア教会会議が開催され、JEA 神学委員会の推薦で倉沢正則師 (TCU 学長) が出席し、アジア諸国の代表者たちと有意義な交流とビジョンの共有が行われた。

「東日本大震災で問われたもの」の発題者の方々と安藤理事長、中台副理事長

JCE6 に向けた懇親会で挨拶する神戸開催地委員会の大嶋博道委員長



賀川督明氏の講演「痛みのシェアー～賀川豊彦たちが遺したもの」

7/12「この国のための緊急祈祷会」47 名が集まり祈りを合わせた

AEA 神学委員長 キム・ユンハン師、AEA 議長 キム・サンボク師、AEA 神学副委員長 倉沢正則師

流れのほとりで

祈りと賛美のちから

JEA 女性委員長　梅田登志枝
（イムマヌエル綜合伝道団　市川キリスト教会）

「真夜中頃、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。」

使徒の働き 16 章 25 節

少し風も爽やかな季節となりました。今年の夏もあちこちでキャンプや修養会、聖会が開かれたことでしょう。主を愛する仲間が集まり、神に「祈り」と「賛美」をささげるとき、世代と立場を超えて主にあってひとつになれるとは、なんと素晴らしい恵みでしょうか。

使徒の働き 16 章には、パウロとシラスが神に「祈り」と「賛美」をささげた出来事が記録されています。けれどもその場所は教会でも聖会でもなく、獄中でした。そしてこの「祈り」と「賛美」が、神のご計画をさらに押し進める結果につながったのです。そもそもパウロたちの投獄は不当であり、福音宣教の妨害と思えました。しかも初めパウロの宣教旅行のプランは別にありました。ところがバルナバとの意見の相違や、御霊のストップなどがあって、ゴタゴタした後にやっと開かれた宣教の扉、マケドニヤの町ピリピでの投獄です。人間的に言うなら「なぜこんなことに?」と神に祈り訴えても仕方のない状況かもしれません。けれども彼らは祈るだけでなく、賛美の歌を神にささげたというのです。ここに神のみわざや答えを見る前に、それを信じて受け取る信仰の姿を教えられないでしょうか。

私たちの信仰生涯においても真夜中と思える出来事を経験することがあるかもしれません。パウロではありませんが、みこころと信じた自分の計画に対し神から変更を求められる、神の導きと思って進み始めた道が閉ざされる、少し事体が良い方向に向いたかと思った途端、再び失望に突き落とされる、などです。それは賛美どころではない、どう祈ったら良いのか、その気力さえ失わせる真夜中と言えるかもしれません。

そんな時、どうぞパウロとシラスの獄中から聞こえる、信仰のデュエットに耳を傾けてください。あの時、そこに共にいた囚人たちも聞き入った賛美です。パウロたちは痛みと苦痛に耐え、これから自分たちがどのようになるのか全く見えない不安の中にいたことでしょう。しかしその時、祈って神の出される答えを待ちながら、すでに神の答えを受け取って神への感謝の賛美を歌ったのです。

私たちのためにそのひとり子までも十字架につけて愛を示してくださった神は、私たちを見捨てることなく、徹底的に守り、最善の道を用意し、どこまでも伴ってくださる、これがパウロたちの信仰の姿でした。

神にのみ向けられ、ささげられた賛美は周囲の人々に平安を与え、やがて大地を揺り動かす神の応答を目の当たりにしました。その力は閉ざされていた扉を開き、束縛していた鎖を解きました。そしてキリストを信じ受け入れる家族が起こされ、やがてピリピ教会が誕生するとは、誰が、想像したでしょう。

私たちがどのような状況に置かれていても、神は神であるゆえにいつでも賛美されるべきお方です。私たちの想像と計画よりもはるかに素晴らしい答えをお持ちの神にだけ、目を向けたいものです。お互いの信仰生涯が、神に「祈り」つつ「賛美」をもって答えを受け取る歩みでありますように。

コーナー　女性の学び「性差によるのか賜物によるのか」について

女性委員会では、WEA(世界福音同盟) 女性委員会出版の「性差によるのか賜物によるのか」の全訳および資料、JEA 女性委員会の考察を JEA ホームページの女性委員会ページで公開しています。そのため、JEA ニュースのこのコーナーは、「流れのほとりで」No １３をもって締めくくらせていただきました。

これまでこの翻訳のために労してくださった、前女性委員の方々、特にこのコーナーのために毎回、原文をさらに要約してくださいました内田みずえ師に心からの御礼を申し上げます。今後はホームページをご活用くださいますようお願い申し上げます。

＊＊＊サンデーランチ＊＊＊

層のサラダ と ベリーアイス

プリスキラ・クンツ
日本福音キリスト教会連合
松見ヶ丘キリスト教会

★層のサラダ（4~5 人分）

【材料】
サラダ：コーン（缶詰）1個（190グラム）、ハム100グラム、パイナップル（缶詰）4～6スライス、こねぎ4～6本、りんご（中）半分
ドレッシング：ヨーグルト（プレーン）200グラム、サワークリーム90ml、マヨネーズ20グラム（大さじ2）、塩&こしょう少々
飾り： ゆで卵1～2個、こねぎ少々

【作り方 】
1. ハムは長さ2cm位の細切り、パイナップルは一口大、こねぎは小口切り、
   りんごは薄い一口大の大きさに切る。
2. 材料をコーンから順番に、好みの瓶またはガラスのボールの下から敷き詰めて、層にしていく。
   （瓶の場合、最後にサラダをかき混ぜられるよう、瓶の上まで入れず少し余裕を残す。）
3. ドレッシングの材料を混ぜ合わせ、層になったサラダの上にかける。
4. サラダの入れ物にラップまたは蓋をして、冷蔵庫で一晩寝かせ味をなじませる。
5. サラダを食べる直前に、層のサラダの上にスライスしたゆで卵とこねぎを散らして飾る。
   食べるときは、全ての材料をかき混ぜていただく。

＊お好きな材料、入れ物でアレンジしてお楽しみください♪

＊お弁当で持って行く時は、一人分を小瓶に入れるのも便利です。
＊また、大きな瓶に入れて家族分のお弁当を用意する時は、食べる前にかき混ぜるボールも持って行くと便利です。

★ベリーアイス（4~6 人分）

【材料】
アイス：冷凍ベリー（ミックス、ラズベリー、ブルーベリー、イチゴ）200グラム、ヨーグルト（プレーン）100グラム、生クリーム100ml、砂糖50グラム

飾り：ホイップクリーム、ベリー、ミント

【作り方】
1. フードプロセッサーに材料を全て入れ、かき混ぜる。
2. かき混ぜた材料をバットに入れ、冷凍庫で 30 分～ 1 時間ほど凍らせる。
3. 器にアイスを盛り、ホイップクリーム、ベリー、ミントの飾りを乗せる。

＊冷凍庫で長時間保存すると、堅くなりすぎてアイスをすくえなくなるので、その場合は食べる少し前に室温に戻します。

いのちのパン ― 踏み出す力はどこから ―

三橋 香代子（越谷福音自由教会）

「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」
ヨハネ二〇章二十一節

イエス様が復活された日、ペテロとヨハネが空の墓を確認し、女性達から主が復活されたという報告を弟子達は聞いた。けれども、彼らはユダヤ人を恐れて、一ヶ所に集まって戸を閉めて身を潜めていた。

人を恐れて前に進む事の出来ない弟子達に、復活された主は現れて、「何故恐れているのか」ではなく、「平安があるように」と声をかけられた。主は彼らの恐れ、悩み、弱さの中に入ってきて下さった。人への恐れ、自分への失望、情けなさの中にいる者に「平安」を与えるだけでなく、「遣わす」という一歩を踏み出す使命を与えられた主。

それから、八日後、弟子たちは復活の主に会いながらも、なお人を恐れて戸を閉めていた。トマスと共にいた彼らの中に立って、主がまず言われたのは、「平安があなたがたにあるように」だった。主は、遣わすために何度も弟子達に平安を与えられた。

十字架は、私達への赦しの宣言。
自分を見捨てた者に見切りをつけない愛。
やり直しではない、新たな福音を伝えるという使命で前に進む力を与えられる方。
それが、私達の復活の主である。

「原発と私たちの責任」

JEA 神学委員会ブックレット紹介

JEA 神学委員　蔦田崇志
（イムマヌエル聖宣神学院）

この度 JEA 神学委員会の論集が、21 世紀ブックレット 49 巻（いのちのことば社）として出版される運びとなった。3.11 の傷痕が深く残る中で、福音派の諸教会は様々な観点からこの事態と向き合って来た。とてもまだ神学的に整理をしてしまえるときではないが、他方神学的な考察が求められているのも事実である。そのような中、委員の各氏が自身の専門分野や関心テーマから原子力発電の問題について取り組んで下さった。

歴史を専門とされる山口陽一氏は『原発と私たちの歴史的責任』の中で原子力発電が「安全神話」「平和利用」をうたい文句に市民権を得る迄の経緯を解説しつつ、教会が世の美辞麗句に踊らされることなく「蛇のようにさとく」あったならば見抜けたはずの欺きや偽りに疎くあったとすれば、その点を悔い改めるべきだと迫る。今日の教会は原子力発電の推進に対して声を上げる歴史的責任があると問い掛ける。

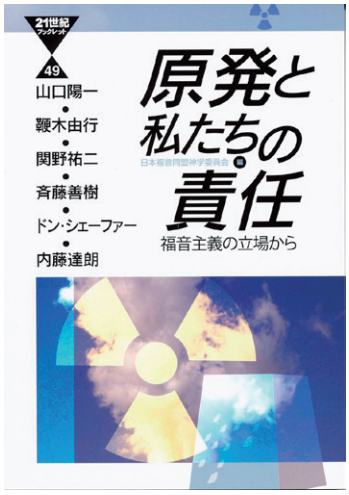
『「地をしたがえよ」から原発を考える』の中で鞭木由行氏は神が人を創造された際に仰せられた「地をしたがえよ」の解釈について考察をし、これは単に人が支配権を自己利益のために行使することではなく、創造者の御旨である被造世界の秩序を保全するためのつとめが託されたと論じる。その観点から原発技術（原子核の操作、廃棄物の処理能力、事故対応、環境への影響を判断する洞察力など）を再考するように訴える。創造の記事を中心とした鞭木氏の釈義展開が意義深い。

原発の問題を信仰と科学の観点から取り組んだのが関野祐二氏の『自然科学から考える原発とキリスト教』である。原発に限らず先端科学が前進する際にしばしば問われることに、人が踏み込んではならない「神の領域」がある。この世界には人が踏み込んではならない聖域があるとする警鐘である。しかし、聖書的な考察を省いてしまったならば、この類いの警鐘は自然界をただ漠然と脅威としてしか捉えることができなくなる。信仰者は創造主への相応しい信仰と、健全な被造世界の理解との接点に立つことが求められている。関野氏は、現代の自然科学は、自然とその現象を特定の法則や公式に閉じ込めてしまい、自然界を閉ざされた世界にしてしまっていると指摘する。それに対して聖書の自然観は、その法則を認めるものの、自然界は決してそれに縛られるとは見ておらず、そこには例えば超自然現象を受け入れる余地が、神の介入を受け入れる「開放された世界観」があると論じる。原発問題に重ねるならば、閉鎖的な観点から反対を唱え、例えば自然環境保護を訴えるならば、そこには本来あり得る開かれた道までもが閉ざされてしまう危険があると指摘する。「創造主に向けて開かれた自然観」こそが今日のキリスト者の追求するべき世界観だと論じる。

東京聖書学院教授、牧会カウンセリングが専門の斉藤善樹氏の訴えは『原発と人間の貪欲性』の中に込められている。氏は原発そのものが貪欲の産物だとは考えていない。しかし問題はその原発の恩恵を「際限なく求め続ける」欲求だと指摘する。探究心は人に与えられた神の賜物である。問題はその与え主である神から人が離反してしまい、それでもなおかつ追い求める衝動が歯止めなく人を押し出すときだ、と論じる。原発に対する期待や依存がこの動力に依っているとすれば、今こそ主イエスの警鐘に耳を傾けるときだと迫る。

本論集には技術畑からの議論も含まれている。『教会の取り組むべき「原子力発電」について考える』と題して日本ホーリネス教団狭山シャローム教会牧師内藤達朗は教会の「社会的責任」と取り組む。政界、研究者、技術者、自治体、教会など各界への具体的な提言がさなれており、その内容はどの立場にある者であれ熟読に値する。しかし、氏の論文で興味深いのは、教会は被造世界の保全をどこまで真摯に優先事項として取り組んで来たかと迫るところである。福音派の諸教会が伝道に対して抱いて来た使命感の陰に社会的責任が隠れてしまっているとしたならば、氏の問い掛けに耳を傾けなければなるまい。

ドン・シェーファー氏の『原発をめぐる米英教会の動向』は、西洋社会における昨今の議論の展開を紹介している。原子力に関して活発かつ多様な議論が展開している最中であることを読み取ることができる。いずれにせよ、キリスト者が地の塩、世の光としてその役割を果たすことが求められていると訴える。



この論集が形を見るのに先んじて、神学委員会ではしばらく信仰と科学の関わりについて研鑽を重ねて来た。地震と津波によって原発事故が生じたのは丁度その頃であった。同委員会の関心が原発問題へと移行したのは従って極めて自然のことであった。そして相応の「下積み」を重ねた考察をこのような形で、またこのタイミングで手に取ることが出来るのは実に時宜にかなっている。私たちが次に照明のスイッチを入れるときに、神学的な思索が伴うことになるやもしれない。

ローザンヌ国際リーダーフォーラム・レポート

Global Leadership Forum 2013 in Bangalore 報告

JEA 総主事　品川謙一

世界 60 数カ国から約 350 人が集まった

2013 年 6 月 17 日～ 21 日、インド・バンガロール市で、ローザンヌ世界宣教会議の Global Leadership Forum 2013 が開催され、世界 60 ヵ国以上から約 350 人が集まりました。日本からは、国際ローザンヌの新しい総裁として選出されたマイケル・オー師、金本悟師（JEA 理事、日本ローザンヌ委員会委員長）など 5 名が参加しました。

参加して感じたことは、①世界各地で神様がなさっていることを分かち合うことの豊かさと励まし、②ビジョンを次の世代に引き継ぐ熱意、③ローザンヌ運動と世界福音同盟 (WEA) の新たな協働の必要性、でした。

会議の中で繰り返されたキーワードは、「God is on the move ＝神は行動しておられる」、「HIS（Humility, Integrity, Simplicity）＝謙遜・誠実・質素」でした。私たちが考える既存の枠組みを超えて神が行動しておられるので、聖書の価値・原則に明らかに矛盾しない限り、勇気をもって新しいチャレンジに踏み出すこと。また、繁栄の福音やメガチャーチの課題に取り組む中で、謙遜・誠実・質素というイエス・キリストの人格を反映したリーダーのあり方、ミニストリーを追求するということが、多くの発題者から語られました。

私の印象に残ったのは、ケープタウン会議に来られなかった中国の家の教会の信徒が、毎日曜日留置場に入れられて夕方に釈放されることを繰り返す中で、彼らを逮捕した警官の中から信仰決心者が与えられた証し、イスラエルとパレスチナの若いクリスチャンたちが、自分たちの世代で本当の和解を生み出すとの決意をもって歩み出した証し、などでした。困難な政治的・社会的状況の中で、福音を受肉させるべく信仰の戦いを続けている兄弟姉妹、特に 20 代、30 代の若い世代の人々の証しは本当に力があるものでした。

イスラエルとパレスチナの和解プロジェクト

次世代への熱意は、42 歳のマイケル・オー師 (前聖書キリスト神学校校長、名古屋在住) が次期総裁として指名されたことに象徴されています。今や世界人口の27%が15歳以下であり、50%が25歳以下、世界人口の平均年齢は28.4歳です。これからの世界に福音を語りかけていくには次世代のリーダー育成と共に実際に彼らにバトンを渡していく必要があることを教えられました。

今回の参加した宣教リーダーたちの多くは、世界福音同盟 (WEA) の各国リーダーシップ、専門委員会やミニストリーのメンバーであり、人材的には、ローザンヌ運動と世界福音同盟 (WEA) の働きはかなりの部分重なっています。

新総裁として選ばれたマイケル・オー師

8 月末に世界福音同盟 (WEA) 総主事のジェフ・タニクリフ師が来日し、マイケル・オー師と名古屋で会いました。次の日に私がタニクリフ師と話したところでは、WEA と国際ローザンヌはそれぞれの特徴を活かして協力していくことを確認したとのことです。個人参加のムーブメントであるローザンヌ運動は最前線 (cutting edge) の働きを担い、WEA のような教会をベースにした組織体は、それをより一般的な形で拡げ、それぞれのコンテキストに相応しい継続的な働きとしていく役割があると感じています。

2004 年から国際ローザンヌ運動の中心となってきたダグ・バーゼル前総裁は今回のフォーラムで公式にリーダーを退かれましたが、彼も二十数年間日本で宣教師として働いた器でありましたし、今回、国際ローザンヌ本部が、世界でも福音宣教が困難とされる日本 (名古屋) に置かれることには、神様の何らかのご計画があるのだと信じます。私たち日本の教会が主の世界宣教の潮流の中でどのように用いられるのかを祈り求めていきたいと思います。

日時：2013 年 11 月 18 日 (月)～ 19 日 (火)
※オプション 20 日 (水) 被災地視察
会場：ビッグパレットふくしま（福島県郡山市）
基調講演：木田惠嗣師 (福島県キリスト教連絡会委員長)
公開集会：鈴木真師 (イザヤ 58 ネット)
主催：福島県キリスト教連絡会 (FCC)
日本福音同盟 (JEA) 宣教委員会

福島は地震、津波に加え放射線の影響を受けています。同時に、教会が「分断」に苦しむ人々に寄り添い、戦いを続けている地でもあります。フクシマからの今の声を聞き、「うめき」を共にし、考え、祈りながら、「うめき」を共にしてくださる主を見上げることできればと願っています。県内はもとより、県外からも多くの主の民に参加をお待ちしています。

日本福音同盟 (JEA) 宣教委員長　末松隆太郎

チームワークでするミニストリー

JEA 青年宣教セミナー報告

JEA 青年委員　和田 治
（日本イエスキリスト教団　和歌山教会）

2013 年 5 月 20 日～ 21 日、美しい自然に包まれた奥多摩バイブルシャレーで JEA 青年委員会主催の「第7回青年宣教セミナー」が開催されました。講師は岡村直樹師。東京基督教大学教授として「ユースミニストリーの神学と実践」「思春期の文化と伝道」などの科目を担当しておられる、ユースのエキスパートです。今回、「チームワークでするミニストリー」というテーマで、専門的な深い内容の講義を大変分かりやすく語って下さいました。

まず、セッション1のテーマは「ユースの信仰成長」でした。クリスチャン大学生への個人的なインタビューとグループディスカッションを通しての研究から、以下のようなことが明らかになった、と語られました。＊彼らがユース期に参加したクリスチャンキャンプ等は、数日間、彼らの「居場所」「たまり場」となった（それは空間や建物以上に、そこで築かれる人間関係を指す）。＊その場所は、キャンプのように教会の外だけではなく、教会の内にも在り得るものである。＊ユースの信仰成長は、この「居場所」「たまり場」を通して起こりやすい。・・・そして、そのような場が真に機能していくためにも不可欠な存在として期待されるリーダー像として、「ユースに教えようとする態度ではなく、彼らを知ろう、理解しようとする態度を感じることができる人」「顔の表情と言葉の語尾が柔らかい人」「ユースの持つ様々な悩みを、動じずに聞くことが出来る人」等があげられました。

セッション2のテーマは「ユースとリーダーシップ」でした。「クリスチャンユースのラポール形成に関する質的研究」を基に語られました。（ラポールとは、「共通の関心や感情を分かち合っているという感情的な共感が成立する状態」を表す言葉で、ラポールの形成はカウンセリングを効果的に進める上で非常に重要であるとされている、とのことです。）研究データの分析から次のように語られました。＊思春期の彼らがラポールを形成することが出来たと感じたクリスチャンリーダーの年齢に、若年から老齢まで非常に大きな幅があり、「クリスチャンリーダーの年齢」を、ラポールが形成できない理由としてあげる発言は、研究の中で皆無であった。＊ラポールが形成されるにあたって、リーダーの笑顔や視線などの非言語のコミュニケーションの影響は大きい。・・・そして、「クリスチャンリーダーは、自らの言動に注意を払いつつ、ユースに笑顔で歩み寄り、彼らに聞き、感情的にも理性的にも彼らの身になって考え、感じることが重要である」とまとめられました。

セッション3では「ユースの主体的な学び（ナラティブ・メソッドの例）」とのテーマで語られました。ナラティブ（物語）はユースの「イマジネーション（想像性）」に強く訴えかけるので、ユースは「イマジネーション」という非常に主体的な行為を通し他者との関係性の中にある自らの場所を確認し、自身の生きがいなどを見出すようになる、と述べられました。また、日本の宗教教育において欠けていると思われる 5 点を指摘されました。①ユースがどのようなナラティブに対して興味を持ち、引き込まれるかという考察の不足　②ナラティブの美的側面（描写の魅力、プレゼンテーションの質等）に対する配慮の不足　③ユースがナラティブに接した後の再考や回想 (reflection) の機会の不足　④ユースの自主的なナラティブの語り直し (retelling) や、ナラティブ創作の機会の不足　⑤ユースがそれぞれの生活環境の中でナラティブを「生きる」ことに対する励ましの不足。

各セッションに続いてグループでの分かち合いも持たれ、与えられた恵みが深化し、熟す時として用いられたと思われます。グループで出た意見の発表の場やアンケートにも、今回のセミナーで各々が受けたチャレンジ、励ましがいかに豊かであったかが現れていました。信徒 5 名、宣教師 2 名、教職 29 名、計 36 名の参加でした。

第 1 回 NSD セミナー開催

2013 年 9 月 2 日 17:00 ～ 19:00、お茶の水クリスチャンセンター 8 階ホールにて、第 1 回 NSD セミナー（JEA 青年委員会主催）が開催され、40 名を超える参加者が与えられました。「高校生とのコミュニケーションの取り方」をテーマに hi-b.a. 代表スタッフの川口竜太郎師による発題、小グループでのディスカッションなど充実した内容でした。NSD セミナーは昨年 9 月に開催された日本青年伝道会議（NSD）の実行委員を中心に、超教派の青年宣教ネットワークを継続・成長させていく目的で、今後、年に 3 回程度開催していく予定です。次回は 2014 年 2 月 3 日に開催予定です。

（P.1 より続き）

なければ神さまの思いに従ってこの世界を治める使命を果たすことはできません。

創世記1章26～28節と3章を見ると、神より与えられた、天地を治める使命を果たすために、救いがあるということではないでしょうか。その使命に対し教会が無関心であっていいはずはありません。私たちの教団も様々な出来事でこの世界への関心を神さまから持たされてきました。ローザンヌ会議でも宣教は伝道と社会的責任と理解されてきました。しかし、むしろ教会にはこの世界を治める使命があると理解すべきかもしれません。

神を知らない者にそれを任せてきた私達の責任の付けが現代の混沌だということかもしれません。キリスト者はこの使命のためにこの世界に派遣されています。原発も、環境保全も、政治、経済、教育、福祉も、司法も平和も私たちがこの世界を治めるために係わる必要があります。このような働きのためにこの世界を知り、その人材の育成を教会は、神学校はすべきではないでしょうか。全世界の人々に福音を伝えることの大切さは損なわれてはなりません。しかし、その目的がこの世界への使命を果たすためであることを土台になされる必要があるでしょう。もう一度福音理解を再確認し、牧師、信徒がそれぞれで考え、共に仕える時、閉塞感などというものと無縁になることでしょう。私たちがそのように生きることで、その使命を果たす感動を次世代に伝えたいものです。これは歴史を刻んでいくことができる使命だからです。

災害対応支援プロジェクト

2013 年 9 月 16 日～ 20 日、フィリピン・マニラ市において、「災害対応における連帯 (Solidarity in Disaster Management)」をテーマとした国際会議が開催されました。日本から私とクラッシュ・ジャパン代表のジョナサン・ウィルソン師が招かれ、東日本大震災への対応で学んだことなどを分かち合いました。

この会議は世界福音同盟 (WEA) および傘下の支援団体組織であるマイカネットワーク、インテグラルネットワーク、ホィートン大学災害研究所 (HDI) などが協力して開催したもので、世界的な気候変動等で自然災害が増加する中、イエス・キリストの福音を人々に届ける通路、福音宣教のテーマとして、災害対応を WEA の主要プロジェクトにしたいとの計画によるものです。

首都直下大地震や南海トラフ巨大地震に備えることは、単なる防災対策ではなく、災害時にキリストの愛を分かち合う隣り人となるための備えであり、日本という自然災害の多発する国に神の民として遣わされている私たちに主から託された責任であると考えます。

今号の巻頭メッセージで内藤達朗理事が語られたように、私たちの救いがこの世界をよりよく治める使命を果たすためであるならば、災害への備えを通して地域社会と関わること、チャリティーコンサートや防災イベントで地域の顔が見える関係づくりを進めていくことは、緊急の災害対応というよりも日常の地道な教会活動の中にこそ位置づけられるべきものだと思います。

そのような意味で、JEA は日本の教会全体の災害対応力向上に資するために、DRCnet、救世軍、ｸﾗｯｼｭ･ｼﾞｬﾊﾟﾝとの協力により、以下のような働きを継続していきます。

■災害対応チャプレンプログラム

2 月に来日し、チャプレントレーニングを指導してくださった米国救世軍のケビン・エラーズ博士による災害時心のケアの入門書「最初の48時間～初期対応としての心のケア」の翻訳が終わり、年明けの出版を目指しています。また自衛隊内のクリスチャン組織であるコルネリオ会や各地の牧師会でのチャプレントレーニングを順次実施していきます。

■首都圏災害対応プロジェクト

ｸﾗｯｼｭｼﾞｬﾊﾟﾝ次期東京災害担当の栗原一芳師を中心に東久留米地区、JEA 援助協力委員長の松本順師を中心に上野地区で、それぞれ地域教会の災害対応ﾈｯﾄﾜｰｸが形成されつつあります。そのような実績を踏まえ、以下の要領で「首都圏大震災に備える－教会ネットワークづくりセミナー」を開催します。

「首都圏大震災に備える
～教会ネットワークづくりセミナー」
日時：2013 年10月8日（火）
午前10時～午後3時
場所：日本ﾎｰﾘﾈｽ教団 上野教会

詳細は DRCnet ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://drcnet.jp/ を参照してください。

（JEA 総主事　品川謙一）

総務局から

◆ 2013 年 8 月 5 日の第 135 回 JEA 理事会で、保守バプテスト同盟の JEA 加盟が承認されました。4 月に加盟した日本フォースクエア福音教団、6 月に協力会員加盟したクラッシュ・ジャパンも含め、新たな加盟団体を歓迎いたします。

◆ JEA 理事会のもとに常設の災害対策室 (2013 年度は東日本大震災対策室と兼務) を置くことを決定しました。緊急災害時にはこれが理事長を本部長とする災害対策本部となります。関東地区と関西地区の理事が役割分担し、関東地区が動けない場合には関西地区で対策本部を立ち上げる態勢を整えました。

日本福音同盟 JEA
日本福音同盟
心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い（ピリピ 1:27）

JEA ニュース 44 号　発行・日本福音同盟 (JEA)
発行者・安藤能成　編集者・品川謙一
〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1OCC#615
TEL : 03-3295-1765　FAX : 03-3295-1933
email : adminoffice@jeanet.org　web : http://jeanet.org/